

「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」

空白地域解消を目的とした 日本語教育機関と連携する体制づくり

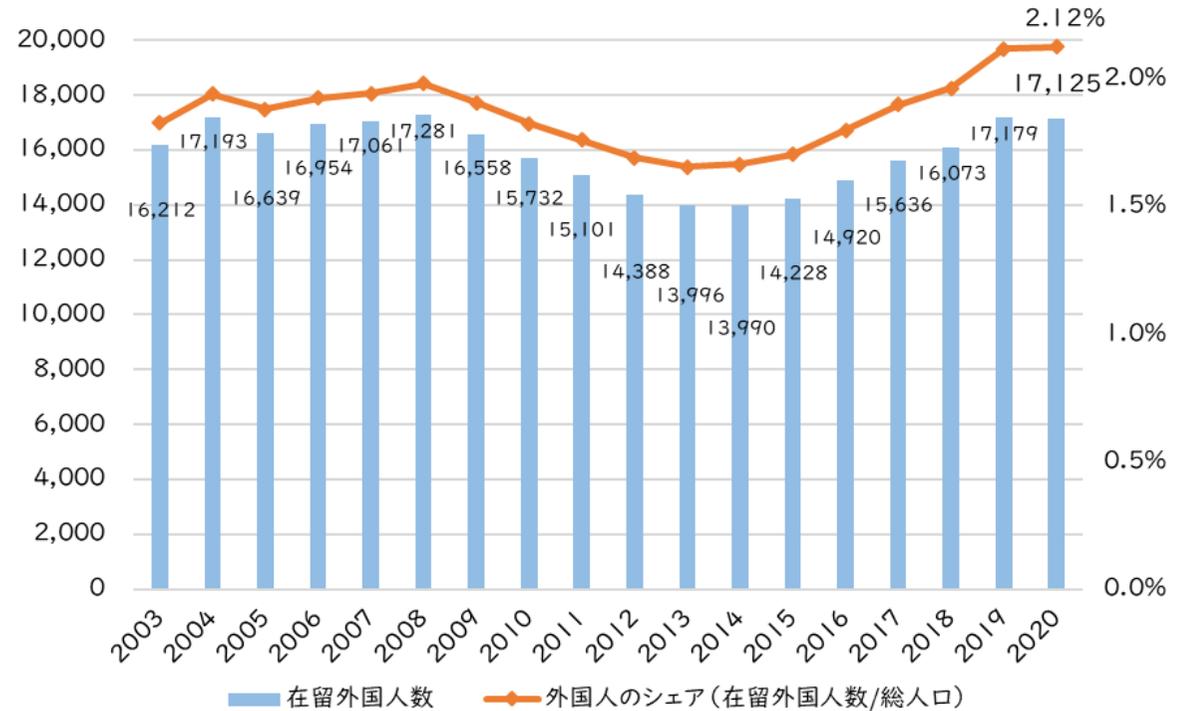
山梨県知事政策局国際戦略グループ 主任 早野 浩晃
総括・地域日本語教育コーディネーター 古屋 玲子
笛吹市市民環境部市民活動支援課 主幹 山田 恵子

山梨県総人口
807,783人

外国人人口
17,125人

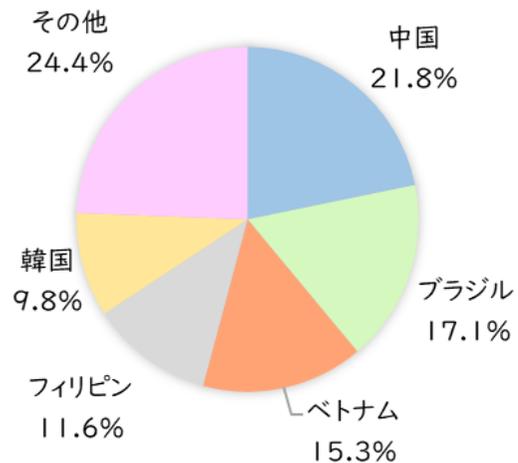
2020年12月時点

◆山梨県の在留外国人人数・外国人の割合の推移 (単位：人、%)



(人)

◆国籍別



◆市町村別

市町村	外国人人数	シェア
甲府市	5,589	33.0%
中央市	1,989	11.2%
甲斐市	1,196	7.2%
南アルプス市	1,167	6.7%
笛吹市	1,123	6.7%
昭和町	792	4.5%
北杜市	682	3.8%
都留市	619	3.4%
富士吉田市	614	3.6%
富士河口湖町	529	3.3%
その他市町村	2,825	16.6%

◆在留資格別

資格	外国人人数	シェア
身分に基づく在留資格	10,353	60.5%
うち永住者	6,463	37.7%
うち定住者	1,948	11.4%
うち日本人の配偶者	1,244	7.3%
うち永住者の配偶者	259	1.5%
うち特別永住者	439	2.6%
特定技能	96	0.6%
技能実習	2,036	11.9%
専門的・技術的分野の在留資格	2,251	13.1%
うち技術・人文知識・国際業務	1,287	7.5%
留学・家族滞在等	2,003	11.7%
うち留学	1,005	5.9%
特定活動	386	2.3%

事業実施前の状況

県内市町村日本語教室設置状況(2019年時点)

	市町村名	設置状況		市町村名	設置状況		市町村名	設置状況
1	甲府市	○	10	韮崎市		19	富士川町	○
2	中央市	○	11	富士河口湖町		20	身延町	
3	甲斐市	○	12	忍野村		21	南部町	
4	笛吹市		13	市川三郷町		22	鳴沢村	
5	南アルプス市	○	14	上野原市		23	西桂町	
6	昭和町	○	15	大月市		24	道志村	
7	都留市		16	甲州市		25	小菅村	
8	富士吉田市	○	17	山中湖村		26	丹波山村	
9	北杜市		18	山梨市		27	早川町	

民間団体所在地 (市町村別)

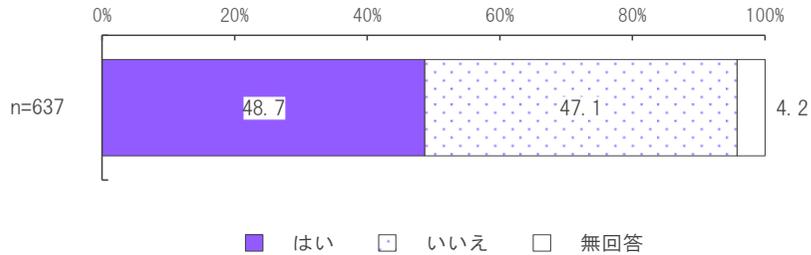
市町村名	団体数
甲府市	5
中央市	1
甲斐市	1
都留市	1
富士吉田市	1
富士河口湖町	1

主な課題

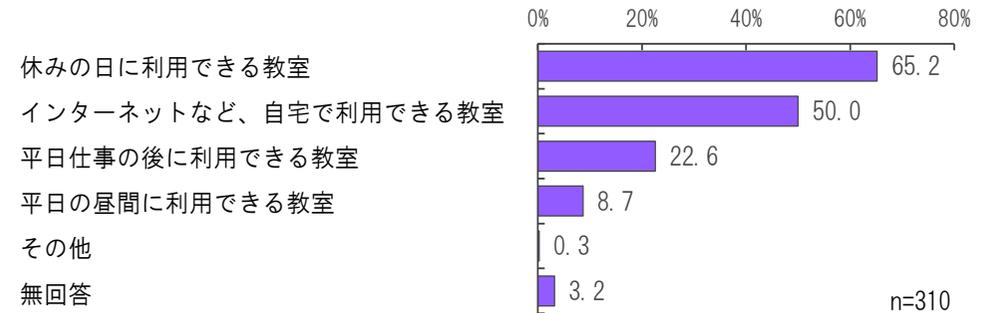
- ✓ 外国人が集住している地域に日本語教室が多く、外国人住民が少ない地域には設置されていない傾向で、**日本語教室の空白地域がある**。特に基礎自治体である市町村の日本語教室設置数は、県内27市町村中7市町に留まっていた。
- ✓ 一部の市町村からは、必要性を認識しているが、**予算や人員、日本語教育に係るノウハウがない**ことから、設置が困難であるとの声があがっていた。
- ✓ 市町村及び民間団体における日本語教室は一部を除いて、**日本語教育を専門的に学んだことのないボランティアの方が講師を務めている**。

「令和元年度山梨県在留外国人アンケート調査」実施結果（一部抜粋）

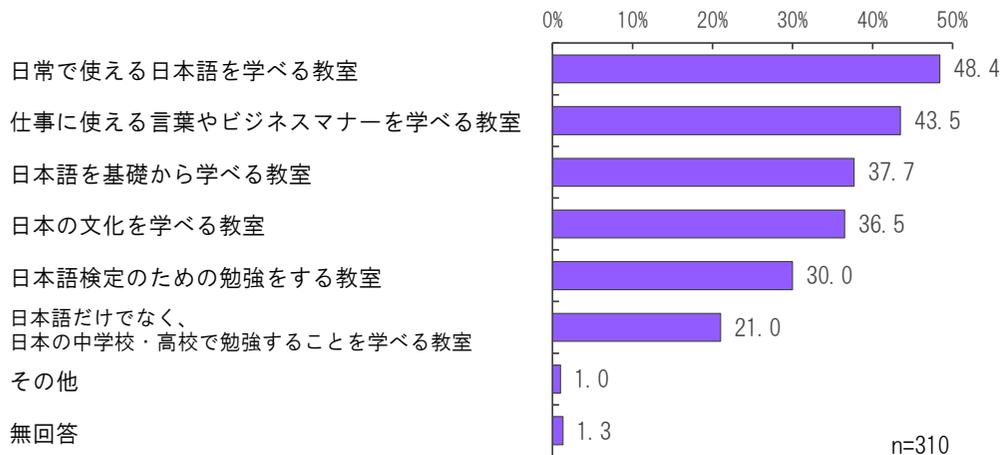
Q.日本語教室・日本語学校に行きたいか。



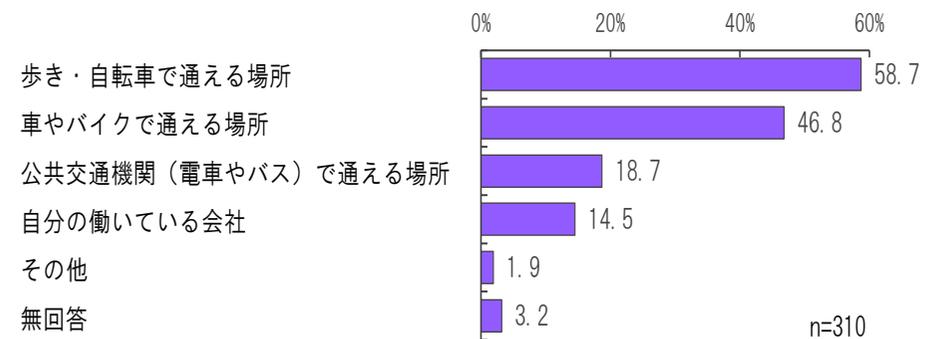
Q.いつ教室・学校があると良いか。（複数回答）



Q.どのような教室・学校に行きたいか。（複数回答）



Q.どこに教室・学校があれば行けるか。（複数回答）



アンケート結果

- ◆ 日本語教室に通っていない外国人の約半数が学習したいと回答している。
- ◆ 日常や仕事、基礎から学ぶことができる日本語など、生活に必要な日本語を学ぶことのできる教室を望む声が多い。
- ◆ 教室は休日に利用でき、歩きや自転車で通える場所での開催希望が多い。

日本語教室の現状とアンケート結果から
山梨県として日本語教育を推進していくために、

これまで日本語教育を受けることのできなかつた
外国人に対し 学習できる機会・場を提供する必要がある。
&
日本語教育の質の向上を図る必要がある。

具体的な取り組み

外国人が気軽に自分で通うことができるよう、
市町村で実施する日本語教室開催の支援を行う。

日本語教育の**専門的な知識を持つ人材**による、
日本語教室の構築及び既存日本語教室への助言を行う。

到達
目標

身近な地域で実施する日本語教室を増やし、時間的・地理的な制約のため
日本語教室に通えていない外国人が質の高い日本語教育を受けられる環境を整える。

事業概要 (R2~R3)

地域日本語教育推進会議の設置 (R2~R3)

◇年2回開催

◇内容

本県における日本語教育の方向性に関する協議、取組の検証や評価等



地域日本語教育コーディネーターの配置 (R2~R3)

◇学校法人ユニタス日本語学校
古屋玲子氏

◇役割

市町村や民間支援団体が実施する日本語教室の状況把握、指導や運営に関する助言、日本語教室モデル事業の支援等



日本語指導団体訪問調査・連携 (R2~R3)

◇県内日本語指導団体訪問調査等

- ・17団体訪問 (NPO法人、市町村等)
- ・県内における日本語教育を取り巻く問題を共有
- ・日本語指導の課題についてアドバイス

日本語モデル教室の実施 (R2~R3)

◇全市町村から「日本語モデル教室」の開催を募集

市町村財政負担なし

専門家が全面バックアップ



日本語学習支援者研修会の開催 (R3)

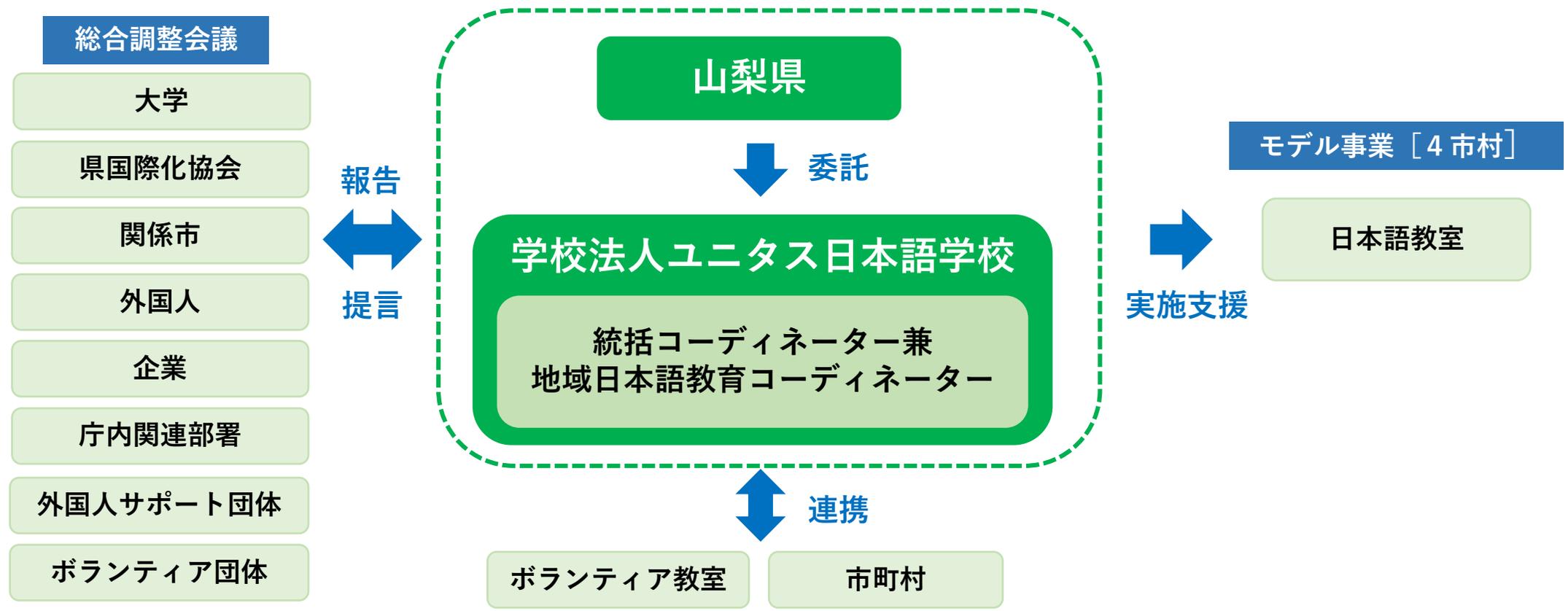
◇2回開催予定

◇内容

日本語学習支援者に求められることと支援者の役割など




実施体制図、スケジュール



	8月 下旬	R 2	R 3
総合調整会議		① ②	③ ④
コーディネーター	各種調整・ 委託先選定	古屋コーディネーター	
モデル事業		R 2 (笛吹市、山梨市)	R 3 (北杜市、忍野村)
既存教室調査		訪問ヒアリング等	
支援者養成			① ②

7. ユニタス日本語学校（委託事業者）の役割

プロポーザル
方式により
毎年選定

ユニタス日本語学校

日本語教育の専門家集団

創立：1983年

業務：留学生、在留外国人への
日本語支援等（毎年20カ国以上からの留学生を受け入れ）

コーディネーター
設置

モデル教室の
企画運営

モデル教室の
質の担保

市町村への啓発

既存日本語教室
との連携

学習支援者の養成

❖ 日本語学校が携わる「ならでは」のこと

① 日本語の専門家が安定的に確保できる

日本語学校はプロの教師集団

- 日本語教師が地域日本語教育コーディネーターになることで、日本語学習の質の向上が期待できる
- 日本語教育を体系的に捉えているため、学習者に合わせた適切で柔軟な対応ができる
- 体系的に捉える中で学習者のレベルを的確に判断できる

日頃から外国人に接しているため、外国人を取り巻く現状や背景理解、異文化理解が基盤として備わっている

② 多言語に迅速に対応できる

「日本語学校」ってどんなところ？

学校法人ユニタス日本語学校（法務省告示校）

◇ 沿革

- 1970年 ユニタス設立
- 1974年 ユニタス外語学院設立
- 1983年 ユニタス日本語学校設立
- 2007年 ユニタス日本語学校東京校設立

◇留学生定員 520名

◇日本語教師 41名

学校教育機関の要件を
満たす**プロの教師**

「日本語学校」での日常

- ・留学生が進路希望を叶えるため日本語を学ぶ
→大学院、大学、専門学校、就職、語学スキルアップ等
- ・生活者、就労者、子どもも学習者
→コミュニケーションスキル、ビジネス日本語、進学等

多様性のある社会

国籍
年齢

身分

日本語レベル
ひらがな
～研究論文

背景

言語能力の向上

日本語を日本語で教授。
4技能、コミュニケーション能力を伸ばす。

サポート全般

日本での生活・進学をはじめ
とした「情報」、「交流」や
「こころ」のサポート

「地域日本語教室」に集う在住外国人の方は？

国籍
年齢

身分
職業

日本語レベル

背景

学びたい、交流したい、情報を得たい

- ◇地域日本語教育コーディネーター
学校法人ユニタス日本語学校 古屋玲子
(山梨出身、在住)

日本語教師歴14年
留学生をはじめ、生活者・高等教育機関における
日本語・就労者（高度人材、特定技能等）・
子どもの日本語コーディネーター業務、
教師育成及び研修業務

日本語モデル教室立ち上げと運営

【実施自治体】 R2：山梨市、笛吹市、 R3：北杜市、忍野村

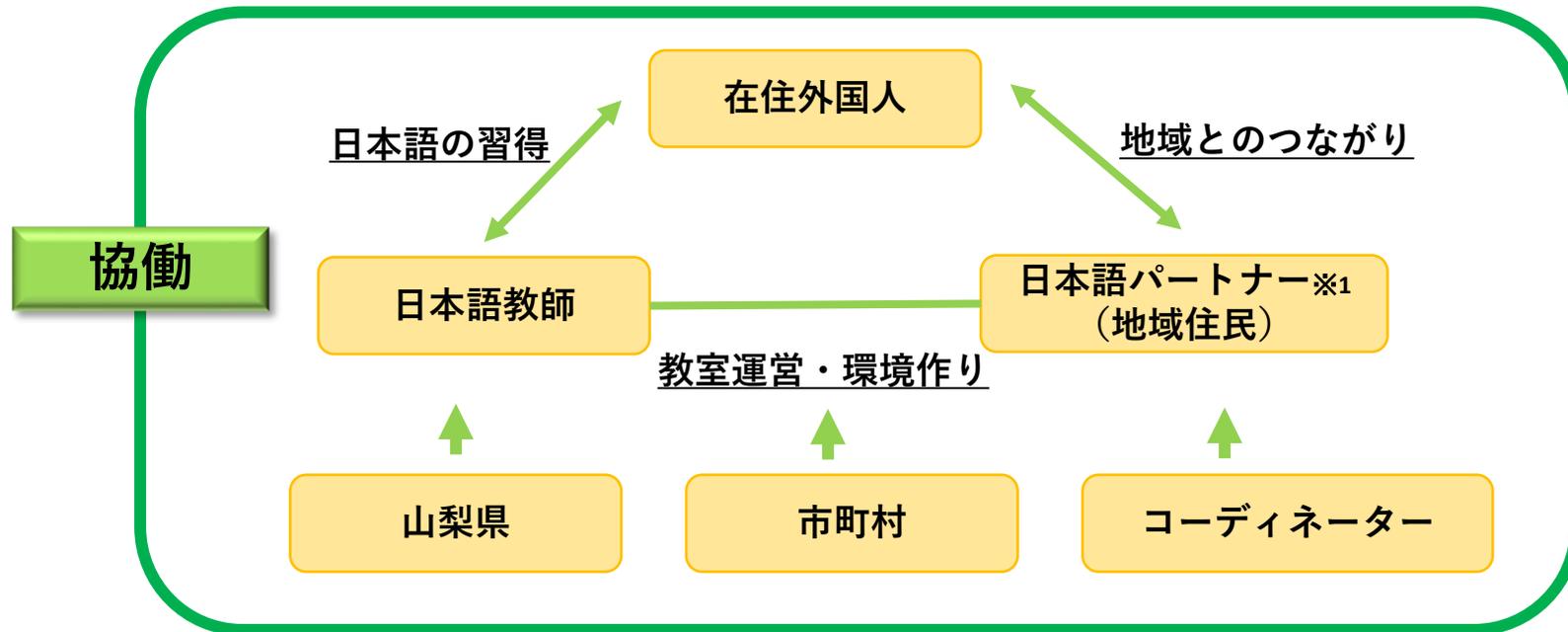
【コーディネーター業務の概要】

- ・ 在住外国人のニーズ調査（在住外国人世帯全戸で実施、多言語による調査 / 教室日程、学習内容）
- ・ 学習者募集（多言語によるサポート）
- ・ 日本語パートナー※1募集と対応、日本語パートナー座談会・研修会
- ・ 教室運営

カリキュラム作成、教材作成、教師指導、市担当課打ち合わせ、日本語パートナー打ち合わせ等全般

- ・ 教室アンケート実施及び集計

【日本語モデル教室形態】



※1日本語学習支援者

教室で扱う内容（1回完結型カリキュラム）

生活の場面の日本語
交流

初期日本語学習

(イメージ図)

教室テーマ

学習文型

広い視野の事柄を表現する

テーマ例：出身地紹介、ごみの出し方、市の防災を知る

難

他者とのやりとりにおいて課題を達成する

テーマ例：予約する、病院に行こう

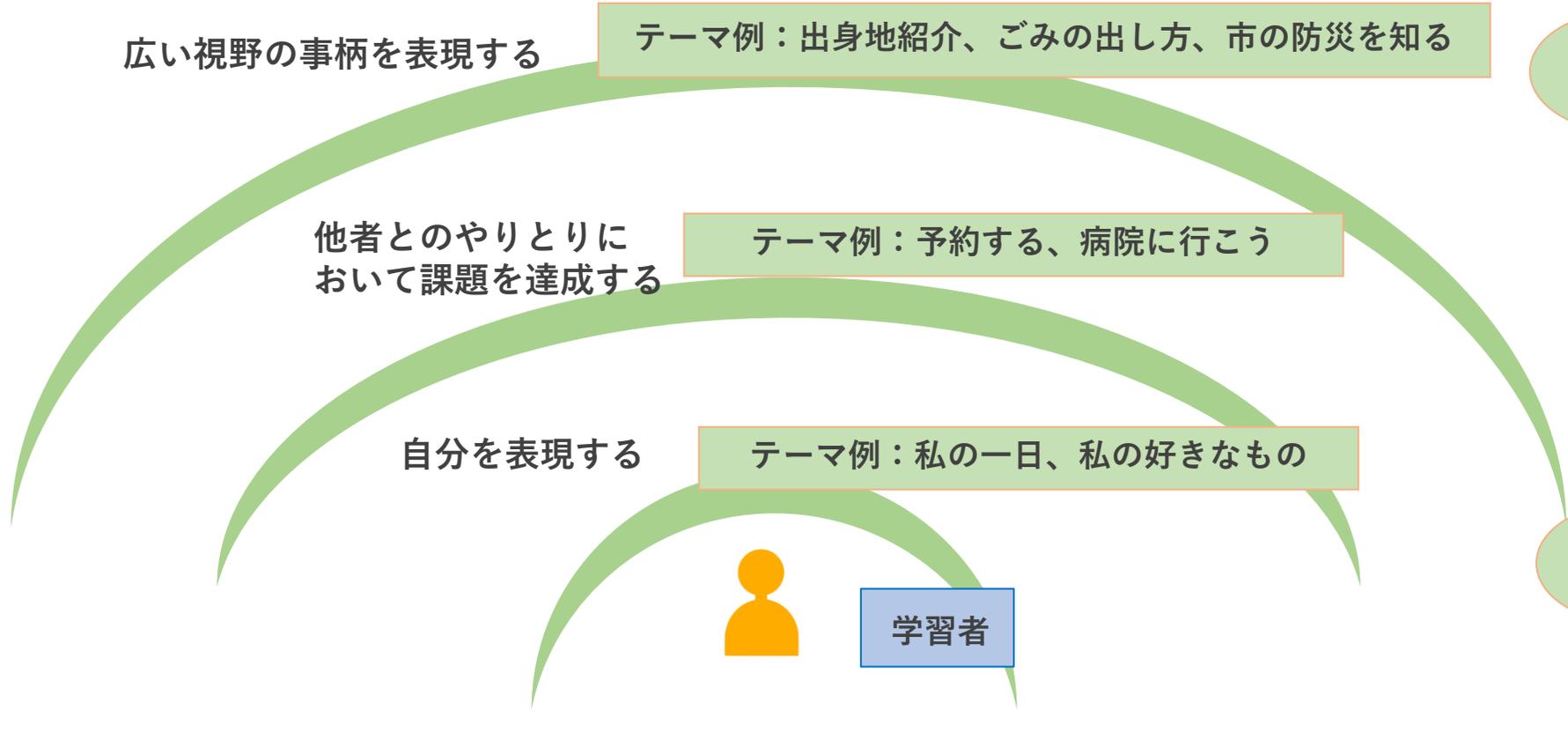
自分を表現する

テーマ例：私の一日、私の好きなもの

易

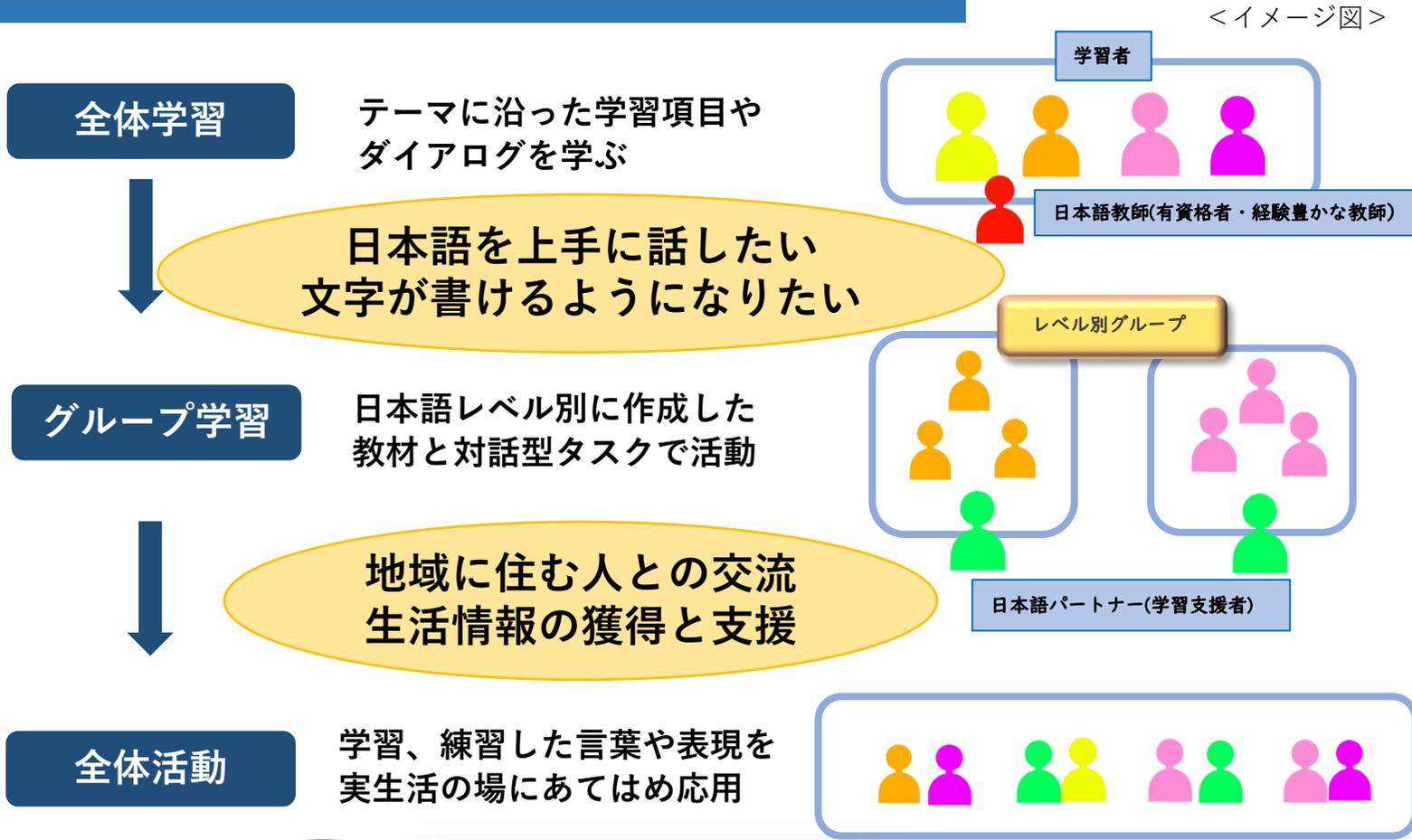


学習者



事業内容（日本語モデル教室）③

モデル教室の流れ（120分）〈参考：R2年度教室〉



全体
学習



グループ
学習



教室で病院での流れを再現



全体活動

備蓄の考えを知る・避難場所の確認



① 日本語モデル教室の改善と進展

- 1) 初期学習を必要とする学習者への支援をより厚くしていく
- 2) 生活に密着した場面を扱うカリキュラムパターンを増やしていく
- 3) 学習者、パートナー、自治体の声やニーズを拾い上げ必要とされる教室に

② 日本語パートナー研修

- 1) 基盤となる考え方を全員が共有した上で教室に参加する

(参考) 令和3年度は希望者のみを対象として2回実施

- ・外国人を取り巻く現状を知る、対等な市民として教室に参加する意識を共有
- ・外国人との接し方（伝わる日本語、“聴く”スキル）を知る

③ 地域づくりの日本語教室へ（みんなの居場所としての教室へ）

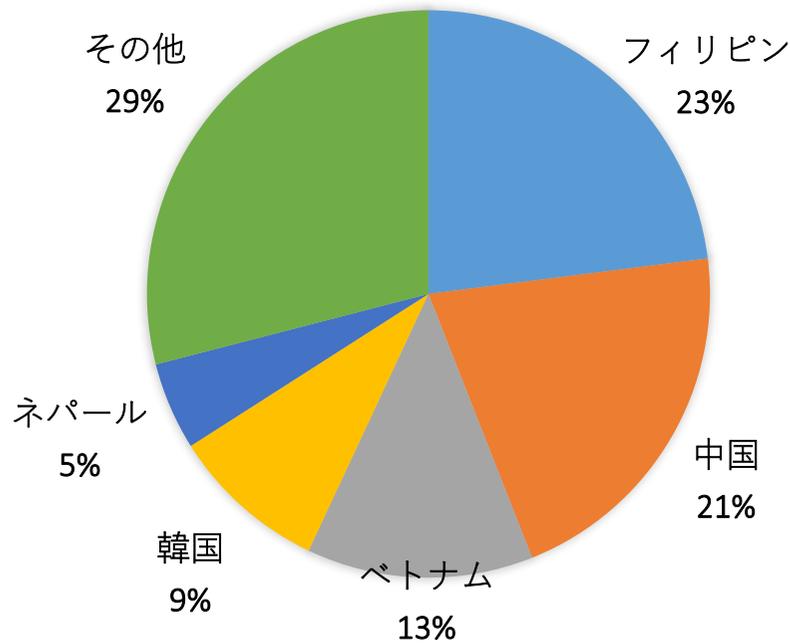
- 1) 既存教室の継続
- 2) 地域の特性を踏まえた問題解決と支援ができる教室へ
- 3) 学習者、地域の方、自治体が協働でつくりあげる教室へ

山梨県 笛吹市

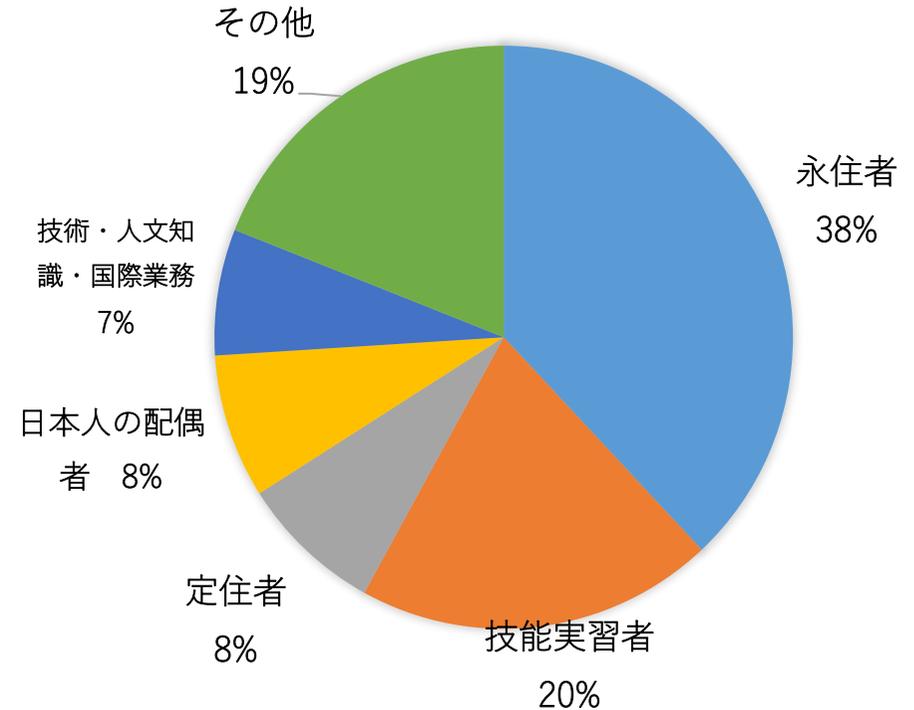
在住外国人人数 1,167人 (人口比 1.6%)

令和2年度実施時点

国籍別割合



在留資格別割合



日本語教室開催前の状況

- ◆外国人の方が、どのような問題を抱えて生活しているのか、どのような支援が必要か知る機会がなかった。
- ◆外国人住民コミュニティの把握が出来ていなかったため、外国人住民へのイベントや交流会などの情報発信に苦慮していた。

笛吹市日本語教室

《開催までの流れ》

- 令和2年7月 山梨県より事業の案内を受ける
- 8月 日本語教室モデル事業に応募
- 9月 コーディネーターと教室の進め方を検討
- 10月 ニーズ調査（外国人全世帯） 878世帯
アンケート実施（日本語教室に参加したい外国人を対象） 147人
講師・学習者・パートナー募集
- 11月～2月 日本語教室の開催

- ・ 週1回 1回2時間
 - ・ 2クラス（初級～中級）
 - ・ 各教室13回 延べ26回
- 申込者計 58名

《参加者の国籍》

フィリピン、ベトナムが一番多く、次に台湾・韓国・ネパールなど 計16か国

笛吹市における事業紹介③

《アンケート結果より》

学習したいこと

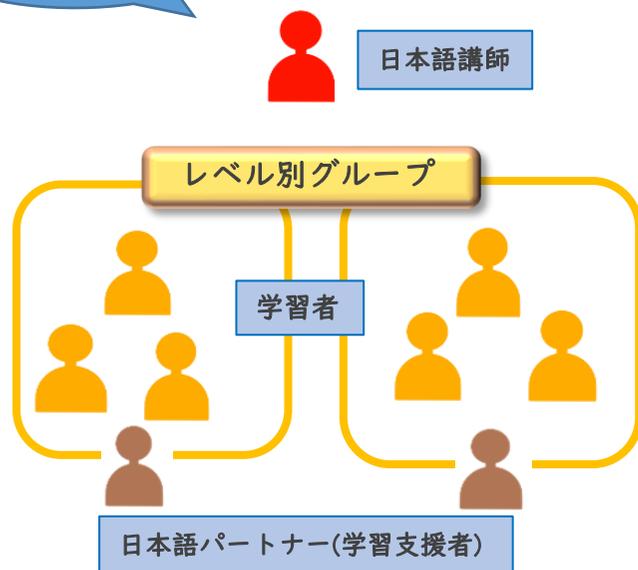
- 1位 生活に必要な会話
- 2位 漢字・ひらがな・カタカナ
- 3位 市役所や病院での会話



《生活に密着したことを中心に学習》

- ・ 時間や曜日の表現
- ・ 予約・注文の仕方
- ・ 病院のかかり方
- ・ 自分の住んでいる地域を知ろう
- ・ ごみの出し方ルール
- ・ 防災ハザードマップ
- ・ ひらがな、カタカナ 他

学習の形態



学習の様子

教室を開催するにあたり苦勞した点

- ・ 日本語講師の選定
- ・ 会場の確保
- ・ 学習者募集（周知方法・翻訳）
- ・ コロナ禍での対応（講師がオンライン、学習者は会場）

今後の課題

- ・ 日本語講師の確保
- ・ 日本語パートナー（ボランティア）の確保
- ・ 会場の確保
- ・ 予算の確保（講師謝礼・委託など）
- ・ 定期的なニーズ調査

事業の成果

～アンケート結果より～

- ・もっと勉強したい。
- ・日本語を勉強することが楽しい。
- ・新しい言葉をたくさん覚えた。
- ・友達が出来た。
- ・笛吹市のことや日本の習慣を知ることが出来た。 など

- * 回を重ねるごとに日本語でコミュニケーションが取れるようになっており、日本語力の向上を感じた。
- * 市から情報発信できる場所となった。
- * 教室が外国人の相談できる場所となった。
- * 外国人同士の交友関係が作れていた。
- * 学習者（外国人）とパートナー（日本人）が繋がる場所となった。
- * パートナー同士の交友の場になった。



日本語モデル教室を実施して...

- ◆ 企画から運営まで全面的にコーディネーターの支援を受けることにより、ノウハウを学ぶことが出来た。
- ◆ 継続的に日本語教室を開催することにより、在住外国人の日本語支援を行っていく。また、教室が外国人の安心できる場所になり、行政支援が行える場所となることを期待し今後も実施していく予定。

成果

- ✓ 本県における地域日本語教育推進事業の**実施体制の整備**
- ✓ 日本語教室設置市町村数が **7市町** から **11市町村** へ
- ✓ 未設置市町村での設置に向けた**機運の醸成**
- ✓ **学習支援者**（日本語パートナー）数の**増加**
- ✓ 日本語教室の**オンライン実施**

空白地域解消
へ前進

課題

- ✓ 未設置市町村における**財政面、人材面の制約**
- ✓ 日本語を専門的に指導できる**教師の不足**

更なる
空白地域解消
へ向けて